

# 体感型の訓練の開始について

平成27年3月26日  
福島第一廃炉推進カンパニー  
福島第一原子力発電所



東京電力

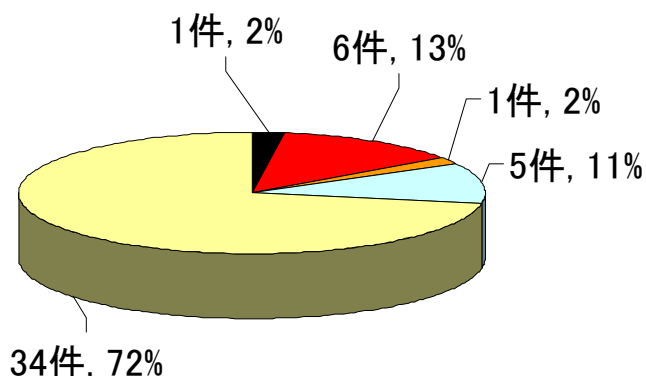
## 1. 背景 ～人身災害発生状況(H27年3月2日現在)～

- ◆今年度、熱中症を除き47件の災害が発生(不休:34件、軽傷Ⅰ:5件、軽症Ⅱ:1件、重傷:6件、死亡:1件)。昨年同時期と比較すると約2.4倍。
- ◆震災後1Fでの経験年数1年未満の経験の浅い人が全体の84%(39件)を占めている。

→**新規入所者の危険予知能力向上が喫緊の課題**

H26年度 傷害別災害発生状況(熱中症除く)

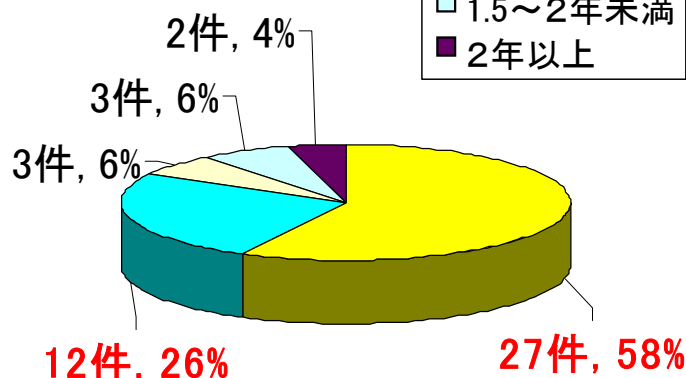
■ 死亡 ■ 重傷 ■ 軽傷Ⅱ □ 軽傷Ⅰ □ 不休



H26年度 経験年数\*別災害発生状況(熱中症除く)

\*震災後の1Fにおける経験年数

■ 0.5年未満 ■ 0.5～1年未満 □ 1～1.5年未満 □ 1.5～2年未満 ■ 2年以上



東京電力

## 2. 体感型の施設を使った訓練

- ◆「一層の安全を確保するためには、危険を実際に体感することも大切」との考えに基づき、新規入所者を対象として、危険を体感できる体感型の訓練施設を1F新事務棟近傍に設置。
- ◆準備のできた体感項目から順次運用を開始(参考1)。
- ◆次の**安全带使用に係わる危険体感を3月末から運用開始**できるよう準備中(参考2)。
  - 落下衝撃力体感
  - 親綱緊張力・ダブルフック歩行体感
  - 安全带衝撃力体感
  - 安全带ぶら下がり体感
- ◆なお、これら体感型の訓練施設は、平成28年7月に完成する**新訓練施設内に移設予定**。
- ◆新訓練施設には、移設した体感項目の他、**必要な体感項目を追加して設置する**。



## 3. 設置場所



## 【参考1】体感項目(案) ～優先12項目～

職種	目的	体感項目	内容(ポイント)	運用開始時期
全職種	被ばく防止	【①】放射線防護装備体感	作業時携行品(作業者証、GB、WID、APD)、タイベック・全面マスク・綿手・ゴム手・靴下・テーピング・アノラック・遮へいベストの装着方法、脱衣方法。	入所時放管教育に組み入れる方向で実施時期を検討中。
	汚染拡大防止	【②】汚染拡大体感	放射性物質が衣服等に付着した場合の汚染範囲拡大の様子を擬似体験する。	
	人身災害防止(全面マスク作業)	【③】作業困難性体感	全面マスク着用した際の視野狭隘、曇り、コミュニケーション、車両運転等時の作業困難性を体験する。	5月
	人身災害防止(高所作業)	【④】落下衝撃力体感	高所(2m、5m)から人(70kg)が墜落した際の衝撃力がどの程度か体感。	3月末
		【⑤】親綱緊張力・ダブルフック歩行体感	親綱緊張機を張力計測器(電子秤)に掛けて、適正な親綱張力を数字で見て体験する。また、ダブルフックを使った梁上歩行を体感する。	
		【⑥】安全帯衝撃力体感	安全帯をかける位置によって墜落時に体にかかる荷重がどの程度変わるか体感する。	

一般 取扱注意 目的外使用禁止

4

## 【参考1】体感項目(案) ～優先12項目(続き)～

職種	目的	体感項目	内容(ポイント)	運用開始時期
全職種	人身災害防止(高所作業)	【⑦】安全帯ぶら下がり体感	安全帯の違い(ベルト型、フルハーネス型)による身体負荷を体感する。	3月末
	人身災害防止(すべり・転倒)	【⑧】滑り・転倒体感	滑りやすい場所でのすべりを体験し、その危険性を体験する。	7月
	人身災害防止(切れ・こすれ)	【⑨】切れ・こすれ体感	グラインダー、カッター等切削工具使用中における切れ・こすれの危険性を体感する。	
	人身災害防止(感電)	【⑩】感電衝撃力体感	高電圧部に触れた際の人体への衝撃力を体感(パネル展示)し、高電圧充電部近傍作業の危険性を理解する。	
土工	人身災害防止(感電)	【⑪】試掘体感	予め埋設された配管、電線管等に対し、探針、試掘(スコップ)を実施し、その感触を身に着ける。	5月
全職種	人身災害防止(危険予知能力向上)	【⑫】KYT	不適切な箇所がある現場写真を掲示し、少人数で危険箇所を探して発表、危険予知能力を向上させる。	4月(①～⑪の危険体感後、各30分)

一般 取扱注意 目的外使用禁止

5

## 【参考2】「安全帯体感設備」概念図

本設備を使って下記の体感を実施。

- 落下衝撃力体感
- 親綱緊張力・ダブルフック歩行体感
- 安全帯緩衝力体感
- 安全帯ぶら下がり体感

